

特記仕様書（舗装工）

三 次 市

第1章 総 則

第1条 適 用

1. この仕様書は、工事施工の適正を期するための仕様書であり、広島県土木工事共通仕様書に優先するものとする。
2. 工事施工にあたっては、設計図面・工事請負契約書及び、広島県土木工事共通仕様書、建設工事執行規則に準拠するほかこの特記仕様書に定めるものとする。

第2条 協 議

1. 設計図面・契約書及び工事現場で不明なこと、計画設計内容等に変更が起きた場合は、直ちに監督員と協議すること。
2. 工事の内容及び工法等について、関係者及び地元役員から変更の申し入れがあった時は必ず監督員に報告し、協議決定してからでないと変更してはならない。

第3条 諸 手 続

1. 工事着手に先立ち、他省庁管理施設（道路・河川・鉄道・電柱・その他公共施設）に関する工事で発注者が認可申請をするもの以外で工事施工に伴う申請（警察署・消防署・漁協等）及び協議を行い、その許可条件を順守すること。
2. 文化財指定周辺の工事は関係者（県教育事務所・市町教育委員）立会いのもと、指示に従って施工すること。

第4条 そ の 他

1. 工事施工にあたっては、第三者に迷惑を及ぼさないよう細心の注意をし、工事用重機及び諸資材の搬出入等で既設道路・水道管・護岸・電柱・家屋等に損傷を与えた場合は受注者の責任において、速やかに管理者等と協議をして必要な処理をすること。
2. 工事施工にあたっては、土木工事安全施行技術指針・保安施設設置基準・公衆衛生等に関する諸法規を順守して現場管理を行うこと。

特に豪雨、出水その他天災に対しては、気象予報に十分注意をして、特にこれらに対処できる準備をしておき、災害の防止に努めなければならない。
3. 設計図面及び仕様書に表示してある寸法はすべて仕上がり寸法である。

第2章 材 料

第1条 二 次 製 品

- 1. 設計図面及び仕様書に特定の製品名及び製造業者名を表示していない場合は、JIS製品・JWWA製品、または監督員が認める同等以上の製品であること。
- 2. 上記規格にないものは、あらかじめ見本及び承認図を提出し、監督員の承認を得ること。

第2条 コ ン ク リ ー ト

- 1. 生コンクリートは高炉セメントB種を使用するものとし、JIS指定工場で生産されたコンクリートを原則とするがこれによらない場合は監督員の承認を得ること。

示方配合は次のとおりとする。

用 途	粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプ (cm)	設計基準強度 N/mm ²	水セメント比 W/C
無筋構造物	40	8	18	60 以下
一般鉄筋構造物	20	8	21	55 〃
均しコンクリート	40	8	18	60 〃

第3章 工 事 施 工

第1条 準 備 工

1. 本工事の開始前に発注者及び地元役員に着手連絡し、工事の早期着工を心掛けること。
2. 工事施工に先立ち、測量杭の確認・控杭の設置・仮水準点の設置をし、工事作業員及び監督員がこれを確認できるようにしておく。また、工事中の保存にも注意し破損した場合は直ちに再設置しなければならない。
3. 工事着工にあたって工事区域内たん水箇所・湧水等を調査し、区域内に水が溜まらないよう排水路・暗渠など設け区域外に排水し、良好な状態で工事が出来るようにすること。
4. 工事に必要な各種の標識は、その位置を決定し工事着工前に設置すること。
5. 工事施工上危険と考えられる箇所には、防護柵などの危険防止施設を設置すること。

第2条 一 般 施 工

1. 工事施工中は不慮の災害（水害・火災・急病等）に対応できるように地区内既設道路・計画道路・連絡道路が通行に支障を及ぼさないように、工事施工計画を立て、更には、道路の維持管理にも注意をすること。
2. 重機の作業にあたっては、土工計画の内容を熟知して、作業工程、施工機械の組合せに注意し施工可能な工種と作業待ちを必要とする工種を区分して無理のないよう工程を立てること。
3. コンクリート二次製品の小運搬は、重機による運搬は行わないこと。
4. 河川汚濁防止の措置としてまた内水面漁業の資源保護のため、工事施工にあたっては十分注意をすること。
5. ダンプトラックによる土砂運搬（工事現場内は除く）はシート掛けをし、道路運行の危険防止に努めること。
6. 残土処分をする場所が指定してある場合の変更及び指定していない場合の位置については、監督員に届出をすること。なお、残土処分をした土砂が降雨等により流出し、周辺から苦情が出ないよう管理をすること。

第3条 土 工

1. 表土剥取り土は、盛土及び埋戻しに流用してはならない。
2. 掘削は過掘りをしないよう十分注意し、人力により床均しをする。なお、誤って過掘をした場合は、土砂で埋戻すのではなくコンクリート（18N/mm²）により埋戻すこと。
3. 掘削法面の浮石・転石等は入念に除去し事故のないよう注意をすること。
4. 切土面の土質が計画と異なった場合、法面の勾配・小段の位置・法止め構造物の位置及び形状の変更を指示することがある。

第4条 盛土工

1. 盛土断面に極端な勾配、凸凹がある場合は盛土に先がけてできるだけ平坦にかき均し均一な仕上がりとなるようにする。
2. 1回の盛土の撒き出しは、仕上り厚は30cmとし必要な密度が得られるように転圧すること。
3. 盛土の高敷きは極力さけ、スベリを防止するため段切りを行うこと。
4. 切土部から盛土部へ変わる箇所で施工中水溜りが出来る所には暗渠を設け排水に注意すること。
5. 構造物が十分に強度を発揮しないうちに盛土を行って土圧を与えてはならない。

第5条 コンクリート

1. コンクリートの打設は湧水・雨が降っている時はしてはならない。
2. 打継目が出ないように十分締固め、コンクリート表面の清掃をすること。
3. 打継目は漏水の原因となりやすいので水密構造物においてはなるべくコンクリートを連続して打ち込み打継目を避ける。なお、打継目を設ける必要がある場合は水平継目とする。

第6条 養生

1. コンクリートは打ち込み後、低温・急激な温度変化・乾燥・荷重・衝撃等の有害な影響を受けないよう十分に注意し養生しなければならない。
2. コンクリートの養生は散水・水張り・ぬれむしろ・湿砂・膜養生等で行い少なくとも7日以上湿润状態に保つこと。

第7条 舗装工事

1. 土工

- (1) 切り取り路床面において、土質の著しい変化のある場合、埋設物を発見した場合、湧水箇所を発見した場合等は、直ちに監督員と協議して指示を受け施工すること。
- (2) 路床の掘削を行う場合は、路床をみださないよう注意して掘削を行い所定の高さとなるように仕上げなければならない。
- (3) 工事中は、切り盛りいかににかかわらず、常に降雨、湧水などによる滞水を生じないように、施工面を整理し、適当な縦断勾配と、仮排水設備を設け、良好な排水状態で維持すること。

2. 路盤工

- (1) 施工に先立って、路床面の清掃と整備を入念に行わなければならない。特に路床仕上げ後、工事車両の通行を許した場合には、路床面の不陸を整正し、清掃しなければならない。
- (2) 路盤の締め固めは、路床路盤材料に応じて、最適な含水量の状態で作業するよう注意し、含水量の過大な時には作業をおこなってはならない。
- (3) 路盤の締め固めは、必要に応じて散水しローラで締め固め所定の支持力または密度が得られるよう仕上げること。

- (4) 締め固め作業は、縦断方向に路側から開始して随時中央に向かって締め固めを行うものとする。もし、ローラが使用できない所があれば監督員の承諾を受けてランマー又は、タンパー等で十分突き固めること。
- (5) 締め固め機械は、その通過軌跡を十分重ね合わせるものとする。
- (6) 締め固め中、路盤に軟弱な部分を発見した時は、直ちに監督員に報告して、その指示により置き換え工法又は安定処理工法を行うこと。
- (7) 仕上げは、所定の縦横断の形状に仕上げ、仕上げ面に浮石や補足材の過不足のため安定しないことがあってはならない。
- (8) 締め固めが終わったら、路盤の不陸を点検し、必要な場合はかき起こして、同じ材料を加えて整正した後、十分に締め固めて仕上げなければならない。

3. 定めなき事項

- (1) この仕様書に定めなき事項、またはこの工事の施工にあたり疑義が生じた場合には、必要に応じて監督員と協議するものとする。

4. アスファルト舗装

(1) 表 層

- ①車道・・・・・・再生密粒度アスコン(20)を使用する。
- ②歩道・・・・・・再生密粒度アスコン(13)を使用する。

表-1 設計密度(仕上り密度)

表 層 工	車道及び路肩	歩 道
粗粒度及び 密粒度アスファルト混合物	2.35t/m ³	2.20t/m ³
細粒度アスファルト混合物	2.30t/m ³	2.15t/m ³

(2) 上層路盤

粒度調整工法・・・・粒度調整碎石M-30を使用する。

粒度を調整した材料の修正CBRは80以上で、425 μ mふるい通過分のPIは4以下でなければならない。

混合物の75 μ mふるい通過分が10%以下の場合でも、水を含んだ場合、軟弱化することがあるので、75 μ mふるい通過量は、締め固めができる範囲で極力少ないことが望ましい。

(3) 下層路盤

粒状路盤工法・・・・再生クラッシャランRC-40を使用する。

表-2 下層路盤材料の品質

項目	I - 1 交通	I - 2, II (L), III (A), IV (B) 交通
修正 C B R	10以上	20以上
425 μ m ふるい 通過分のPI	9以下あるいは75 μ m ふるい 通過質量10%以下	6以下
望ましい最大粒径	40mm 以下	40mm以下

5. 舗装修繕工

(1) 一般事項

受注者は、舗設作業中に生ずる段差を下記により処理しなければならない。なお、舗設段差のすり付けに使用した合材を、次回の舗設に先だって取り除き、清掃してからでなければ次の舗装を行ってはならない。

①縦断段差

縦断方向の段差は一般交通の用に供さなければならない場合には、舗設中の合材により1:20以上の勾配ですり付けなければならない。また、縦断方向のすり付けは、本線舗装と同時施工するものとし、締固めも同機種で行わなければならない。

②横断段差

横断方向の段差は生じないように施工するものとし、やむを得ず横断方向に段差を付した状態で、一般交通の用に供さなければならない場合には、舗設中の合材により、1:5程度ですり付けなければならない。

③支道すり付け・路肩すり付け

支道すり付け・路肩すり付けは、本線舗装と平行して行うものとし、本線舗装と支道の段差をつけないよう施工しなければならない。やむを得ず段差が生じる場合のすり付け勾配は1:10程度とし適切な保安施設を設置しなければならない。

- (2) 受注者は、本線舗装の起終点すり付けについては、アスファルト合材の飛散等のないように、密着させなければならない。

6. 切削オーバーレイ工

- (1) 受注者は、現道オーバーレイの施工前に現道部分の縦断・横断測量を実地し、施工法（舗装構成区分・舗装構成毎の厚さ及び交通処理計画）・縦横断計画高等を立案し監督員の確認を得なければならない。
- (2) 受注者は、施工面を整備した後、「特仕」第3章 第7条 4.アスファルト舗装のうち該当する項目の規定に従って各層の舗設を行わなければならない。
- (3) オーバーレイの最小厚は5cm以上とする。オーバーレイ各層で最小厚5cmを確保できない箇所は、当該箇所の上層と同一合材で同時舗設するものとする。受注者は、表層において設計図書に示す厚さが確保できない場合、設計図書に関して監督員と協議しなければならない。

7. グルーピング工

(1) 一般事項

グルーピングの形状及び施工範囲は設計図書によらなければならない。

受注者は、グルーピングに先立ち舗装面に異状を発見したときは、監督員に報告しなければならない。

グルーピングは、湿式又は乾式により施工するものとし、グルーピングに使用する水は、油、酸、塩類やその他の有害物を含んではならない。

(2) クリアランス

受注者は、灯器がある場合、30cmのクリアランスを保って施工しなければならない。

受注者は、灯火用ケーブルがある場合、15cmのクリアランスを保って施工しなければならない。

受注者は、コンクリート舗装の膨張目地、横収縮目地等がある場合、15cmのクリアランスを保って施工しなければならない。

(3) その他

受注者は、施工中連続して清掃を行わなければならない。

また、滑走路の供用開始前に、監督員に報告し、清掃完了の確認を受けなければならない。

グルーピングの切削かすの処理は、設計図書によらなければならない。

第8条 跡 片 付 け

1. 丁張・測量杭等の撤去は法面をいためないようにする。
2. 材料置場・仮設物・標識などは速やかに撤去し原形に復すこと。
3. 工事区域内に飛散した雑物は処分清掃すること。

第9条 そ の 他

1. ダンプカー協会加入者の優先使用について

(1) この契約に係る工事の施工に当たってダンプカー協会の設立、加入等の状況に応じてダンプカー協会加入者を優先的に使用するようつとめること。

2. ダンプトラック等による過積載の防止について

(1) 工事用資機材の積載超過のないようにすること。

(2) 過積載を行っている資材納入業者から資材を購入しないこと。

3. 建設工事に係る暴力団による工事妨害について

(1) 暴力団から工事妨害の被害を受けた場合は、その旨を直ちに報告するとともに被害届けを速やかに警察へ提出すること。

(2) 警察から被害届受理証明書が交付され、かつ工程の調整を行ったにもかかわらず工期に遅れが生ずるおそれがある場合は、建設工事請負契約約款（以下「約款」という。）第21条の規定による工期延長申請書に当該証明書を添付して提出すること。

第10条 廃棄物の処分について

本工事における再資源化に要する施設・費用（運搬費を含む処分費）は、各々の施設のうち受入条件が合うものの中から、運搬費と受入費（平日の受入費用）の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って、正当な理由がある場合を除き再資源化に要する費用（単価）は変更しない。

第11条 週休2日制工事について

本工事は週休2日制工事（受注者希望型）であり、「三次市週休2日制工事実施要領」に基づき実施すること。